

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670102169
法人名	有限会社 エーペック
事業所名	グループホーム 人生の楽園
訪問調査日	平成 19 年 12 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 6 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	670102169		
法人名	有限会社 エーペック		
事業所名	グループホーム 人生の楽園		
所在地 (電話番号)	山形県山形市大字風間1261番1 (電話) 023-686-4482		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費18,000円他実費
敷金	有() 円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	4 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	83.6 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安孫子内科医院・加藤歯科医院・ファミリークリニックやざわ
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員と利用者が一緒に畑仕事に取り組み収穫した食材を利用しながら、野菜を切ってもらい、味見をしてもらい、餃子の具を皮で包んでもらい、ちらし寿司の際の具を混ぜてもらいなど、「一人ひとりの利用者ができる小さなこと」を積み重ねてきており、利用者職員が協力し合う喜びや楽しさが日々の暮らしの中から生まれてきています。家族へ利用者の状況が見えるように毎月1回スナップ写真と状況報告書(健康状態・介護計画の課題に添った利用者の状況・連絡事項)を渡し、作成した介護計画が単に書面のみで終わらず毎日の実際の介護に自然に結びつくことを意識したスタイルの記録にするなど、家族への細やかな気配りと、より質の高いサービス提供を目指しているグループホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 消防署職員の協力を得ながら、避難訓練、消火訓練、人工呼吸、自動体外式除細動器(AED)使用による心肺蘇生法の講習が行われており、緊急時の手当や対応への取り組みが行われている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回評価時の課題への取り組みは行われているが、今回の自己評価に対する管理者以外の職員の関わりが少ないため、自己評価の一連の過程に職員全員で取り組むことにより、評価の意義の理解をより深めながら、評価の効果をさらに高めていく取り組みが期待される。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催し、利用者の状況・ケアサービスの内容と課題・地域交流についての話し合いが行われており、風水害等の対策や避難など、地域住民の理解と協力が得られるためのきっかけづくりにもなっている。また、運営推進会議の議事録等は市の担当者へも提出されている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の言動が他の利用者に与えてしまう影響とその対策などについて意見が寄せられた際、医療機関受診の対応や職員の関わり方の工夫などが熱心に行われており、できるだけ家族等の意見や要望に応えながら、運営に反映していく努力を根気よく続けている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の草取り、盆踊り、マラソン大会の応援、お神輿が回ってくる、お神酒をいただくなどの地域行事に積極的に参加している。また、ホーム近くの河原での芋煮会の際は、ホームのトイレを小学生にも開放するといった協力も行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり・楽しく・一緒に」を理念に掲げ、一人ひとりのペースを尊重し、事故のない、安心で安全なホーム、笑顔の絶えない、健康で生きがいもてるホーム、また、地域社会とも自主的に交流し、地域の中でその人らしく暮らし続けられる、開かれたホームを目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を入り口やスタッフルームに掲示し、常に職員が意識しながら支援できるように取り組んでおり、ミーティング時には理念を繰り返し職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の草取り、盆踊り、マラソン大会の応援、お神輿が回ってくる、お神酒をいただくなどの地域行事に積極的に参加している。また、ホーム近くの河原での芋煮会の際は、ホームのトイレを小学生にも開放するといった協力も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価時の課題への取り組みは行われているが、今回の自己評価に対する管理者以外の職員の関わりが少ない。	○	自己評価の一連の過程に職員全員で取り組むことにより、評価の意義の理解をより深めながら、評価の効果をさらに高めていく取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況・ケアサービスの内容と課題・地域交流についての話し合いが行われており、風水害等の対策や避難など、地域住民の理解と協力が得られるためのきっかけづくりにもなっている。また、運営推進会議の議事録等は市の担当者へも提出されている。		

山形県 グループホーム人生の楽園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者がホームを訪問して利用者とはふれあう機会があり、市の担当者引き続き訪問してもらうことにより、利用者との交流をさらに図りながら、サービス向上の基盤づくりにも役立てたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「楽園だより」を月に1度発行し、一人ひとりの介護計画に添った支援状況・健康状態・連絡事項・スナップ写真を家族に送付して報告されている。また、職員の異動は写真入で報告され、個人ごとの金銭出納状況も詳しく報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動が他の利用者に与えてしまう影響とその対策などについて意見が寄せられた際、医療機関受診の対応や職員の関わり方の工夫などが熱心に行われており、できるだけ家族等の意見や要望に応えながら、運営に反映していく努力を根気よく続けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と馴染みの関係がつかれるよう「さりげなく・自然に」をモットーとしている。新しい職員には日中の勤務を比較的多くし、自然にホームの一員として利用者からも受け入れられるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者へのサービスを向上させるため、他ホームとの交換実習・リハビリテーションの研修・記録の書き方の研修に参加しており、研修報告書により全職員に報告されている。また、心肺蘇生法・自動体外式除細動器(AED)使用法についても消防署から指導を受ける機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の職場での実習体験で得た知識やアイデアを自らのホームにも取り入れており、保健・医療・福祉分野のネットワークづくりも視野に入れながら、同業者との交流をさらに広げていこうと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒にホーム内を掃除しており、利用者が率先して手すり拭きや掃除機がけを行う姿も見られた。また、食器拭き・洗濯物の整理・炊作り・梅干作り・干し柿作りなどにもできる範囲で利用者が加わり、互いに支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ハーモニカ演奏が得意な利用者の演奏に合わせて皆で歌を歌う、洗濯物の仕分けが上手な利用者に洗濯物仕分けを任せるなど、それぞれの利用者が自然な形で、生き生きとした表情で参加している。また、利用者への家族の思いも受け止めて、散歩・外出・野菜切り等をする場面をつくるようにもしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・介護職員・看護職員・ケアマネジャー等で話し合いを行い、介護計画を立てている。また、計画の実効性をより高める工夫として、介護計画にある課題や支援の内容が、毎日の暮らしのどの場面で、どのように具体化したのかがわかるように意識して記録し、全ての職員が、介護計画が利用者の状況に合っているかの確認と気づきが得られるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを3ヶ月に1回行っており、家族面会時に説明され、利用者の変化に伴った気づきを話し合いながら、現状に即した計画となるようにしている。		

山形県 グループホーム人生の楽園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者・家族の希望を大切に、内科・精神科・整形外 科・歯科などに通院できている。また、体調の変化時や 心配事があるときは、ホームの協力医療機関との相談 や連携ができており、適切な医療が受けられるように支 援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	看取り介護の指針を作成し、看取りの考え方・具体的 な対応内容を含めた体制を整えている。また、突発的な 状況があった場合には、看護師と連絡が取れるオン コール体制もできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	一人ひとりのプライドやプライバシーを傷つけないよう 丁寧な対応がなされているが、利用者の介護記録は ホール内のキッチンカウンター付近に、買い物かご状 の入れ物に入れて保管されている。	○	記録等の個人情報を取り扱う際の注意事項についての確 認及び記録の保管方法等についての検討が期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	その人が何をしたいのか、何を望んでいるかをよく理解 するように努めながら生活支援を行っており、利用者か ら笑顔が生まれるような対応を心がけている。		

山形県 グループホーム人生の楽園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れながら、みんなで献立を考えて買い物に行ったり、餃子やハンバーグ作りを利用者と職員と一緒にするなど、楽しみや喜びが生まれる支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっており、時間も利用者の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	やる気が出るよう、一人ひとりの生活歴を把握して昔の経験を引き出しながら、好きなことやできることをしてもらいようにしており、やりがいのある生活を送ることができるように、歌・料理・ハーモニカ演奏・園芸・畑作り・茶道等を楽しめる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ストレスが溜まらないように、近くのスーパーへ買い物・近隣周辺の散歩・ドライブ等で気分転換が図られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかけることによる弊害を理解し、帰宅願望の強い利用者の精神状態をキャッチし、一緒に散歩することで気分転換を図り、鍵をかけない工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、利用者と一緒に避難訓練を実施しており、運営推進会議の際にも自然災害発生時の対応について、参加者のアドバイスや協力を得ている。		

山形県 グループホーム人生の楽園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量や歯の弱い方への「刻み」対応など、利用者の好みや状態にも配慮し、食が進むように工夫している。また、個人ごとに水分・食事量をチェックしており、水分を摂取しようとしないう方には、プリン・ゼリーなどによる水分摂取の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングでゆったりとソファーに座りながら大きな窓から四季折々の風景を眺めたり、台所での調理風景、音、匂いを五感で感じ、家庭的な居心地のよい雰囲気の中で過ごすことができている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「その人らしい、居心地よい、安心できる」居室となるように配慮されており、家族の協力も得ながら、母親からもらった使いなれた箆笥、利用者が若い頃に買い求めた大切にしている鏡など、馴染みのものを持ち込んだ居室となっている。		